

藤沢市 平成30年度事務事業評価シート(平成29年度分)

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------|----|---|----|---|----|---|----|----|-----|-----|-----|-------------|------|----|------|
| 事務事業名 | 一色川改修費 | | | | | | | | | | 担当課 | 部課名 | 道路河川部 河川水路課 | | | |
| 予算科目コード | 会計 | 01 | 款 | 09 | 項 | 03 | 目 | 02 | 細目 | 001 | 説明 | 01 | 課等の長 | 平田良祐 | 電話 | 4451 |

1. 事業概要

| | | | | | | | |
|---------------------------------------|---|--------------------------------------|----------|--------------------------------------|---------|--------|---|
| 事業開始年度 | 平成 26 年度 | 終了(予定)年度 | 平成 51 年度 | 事業の性質 | 義務的自治事務 | | |
| 事業概要 | 準用河川一色川流域の浸水被害を防止し、流域住民の安全・安心を確保するため、河川改修事業を行う。 昭和53年:準用河川の指定。(指定延長L=1, 900m) | | | | | | |
| 事業目的 および 必要性 | 浸水被害の軽減を図り、流域住民が安心して暮らせるまちの実現。 時間雨量50mmに対応した河川改修。 都市化の進展やゲリラ豪雨が頻発していること、さらに今後予想される地球温暖化の影響等を踏まえると、治水対策の重要性はますます高まっており、洪水等の災害から市民生活を守るために必要な事業である。 | | | | | | |
| 対象 | 4. その他 | 一色川流域住民 | | | 約 | 19,600 | 人 |
| 根拠法令等 | 法律等 | 河川法, 特定都市河川浸水被害対策法, 藤沢市準用河川管理施設等構造条例 | | | | | |
| 事業実施 手法 (該当する もの全てに チェック) | <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 | | | | | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 委託・指定管理 (委 託 先 : (株)カナコン) | | | | | | |
| | (委 託 等 内 容 : 準用河川一色川橋梁・護岸等詳細設計委託) | | | | | | |
| | <input type="checkbox"/> 補助金・負担金 (:) | | | | | | |
| <input type="checkbox"/> その他 () | | | | | | | |
| 藤沢市市政運営の総合指針2020 | | | | その他の計画との関連 | | | |
| 重点施策名 | | 指針体系コード | | | | | |
| 一色川改修費 | | 1-1-71 | | 湘南ふじさわ下水道ビジョン (浸水対策としての河川・下水道の整備) | | | |
| 関連の深い「市民生活に関する意識調査結果」 | | | | | | | |
| 市民意識調査における質問項目 | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | | |
| 災害に対して、市民が不安なく暮らせるまちであること。 | | 2.8点 | 2.8点 | 2.8点 | 2.79点 | | |
| | | 点 | 点 | 点 | 点 | | |

| | | | |
|---|-----------|----------------------------------|----------------|
| 平成29年度 支出済額 77,023 千円 | 事業費節別内訳 | | |
| | 費 目 | 支出済額 (千円) | 主な事業内容 |
| | 旅費 | 29 千円 | 普通旅費 |
| | 需用費 | 155 千円 | 事務用品 |
| | 役務費 | 745 千円 | 不動産鑑定料 |
| 委託料 | 76,094 千円 | 詳細設計, 予備設計, 用地測量, 建物等調査, 護岸健全度調査 | |
| 【参考】 平成30年度 予算額 44,481 千円 | 事業費節別内訳 | | |
| | 費 目 | 予算額 (千円) | 主な事業内容 |
| | 委託料 | 1,100 千円 | 建物調査 |
| | 工事請負費 | 3,200 千円 | 橋梁架替工事に伴うヤード整備 |
| | 公有財産購入費 | 22,500 千円 | 河川改修に伴う用地取得 |
| | 補償補填及び賠償金 | 17,000 千円 | 河川改修に伴う補償 |
| その他 | 681 千円 | 旅費, 事務用品費, 借地料 | |

2. この事務事業に関わる職員数(任用形態別人工数)

| | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|--------|
| | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
| 正規職員等 | 1.00 | 1.90 | 2.00 | 2.30 |
| 再任用短時・任期付短時職員 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 非常勤職員 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 合計 | 1.00 | 1.90 | 2.00 | 2.30 |

※正規職員等=正規職員+再任用職員(短時以外)+任期付職員(短時以外)+常勤嘱託職員

3. 事業実施内容・成果

| | | | | | | | |
|----------------------|--|----|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------------------------|
| 平成29年度 事業実施 内容 | 1 準用河川一色川橋梁・護岸等詳細設計委託 2 準用河川一色川バイパス水路等予備設計委託 3 準用河川一色川護岸等健全度調査委託 4 準用河川一色川建物等調査委託 5 一色川沿道路面下空洞調査 6 稲荷山橋架替に係る交通量調査 7 警報装置の調整、河川定期点検 | | | | | | |
| | 指標名 | 単位 | 平成26年度 目標値 | 平成27年度 目標値 | 平成28年度 目標値 | 平成29年度 目標値 | 備考 |
| 成果目標 | 対象区間における事業進捗率 | % | 2.0 | 3.0 | 6.4 | 17.1 | 対象区間は、最下流のL=240mとする。 工事着手予定H31～ |
| | 参考 | | | | | | |
| 活動実績 | 指標名 | 単位 | 平成26年度 実績値 | 平成27年度 実績値 | 平成28年度 実績値 | 平成29年度 実績値 | 備考 |
| | 工事着手に向けた他企業協議等 | % | 9.2 | 13.8 | 29.2 | 77.9 | |
| | 改修工事に向けた河川用地の取得等 | % | | | | 16.3 | |
| 成果実績 | 指標名 | 単位 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 備考 |
| | 対象区間における事業進捗率 | % | 2.0 | 3.0 | 6.4 | 17.1 | |
| 数値で表せない効果 | | | | | | | |

4. コスト分析

| 年度 | | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | |
|--------------------|----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|
| コスト | 行政費用(フルコスト) A | 28,752 | 29,997 | 54,579 | 96,656 | |
| | (1)現金を伴う支出 (千円) | 25,145 | 27,137 | 51,269 | 99,257 | |
| | 事業費(支出済額-②報酬合計) | 15,667 | 9,301 | 23,297 | 77,023 | |
| | 償還金利子 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 人件費合計(①+②+③) | 9,478 | 17,836 | 27,972 | 22,234 | |
| | 職員数(常勤 非常勤) | 1.00 0.00 | 1.90 0.00 | 2.90 0.00 | 2.30 0.00 | |
| | 参考:正規職員平均給与 | 8,880 | 9,040 | 9,101 | 9,219 | |
| | ①職員給与合計(常勤) | 8,880 | 16,872 | 26,393 | 21,204 | |
| | ②報酬合計(非常勤) | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ③退職金相当額 | 598 | 964 | 1,579 | 1,030 | |
| | (2)現金を伴わない支出 (千円) | 3,607 | 2,860 | 3,310 | -2,601 | |
| | ①減価償却費 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ②退職給与引当金繰入額 | 3,607 | 2,860 | 3,310 | -2,601 | |
| | ③不納欠損額 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| ④その他() | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 収入 | 行政収益(事業収入) B | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | (3)現金を伴う収入 (千円) | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ①分担金及び負担金 c | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ②使用料及び手数料 d | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ③国庫支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ④県支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ⑤その他() | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | (4)現金を伴わない収入 (千円) | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 収入未済増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 収支差額(純費用)A-B E | 28,752 | 29,997 | 54,579 | 96,656 | | |
| 分析指標 | 項目 | 対象区間における事業進捗率 F | 2.1 | 3.1 | 6.5 | 17.3 |
| | | | 単位 % | 単位 % | 単位 % | 単位 % |
| | 1単位あたりの総費用 A/F (円) | | 13,691,428.57 | 9,676,451.61 | 8,396,769.23 | 5,587,052.02 |
| | 市民1人あたりの負担額 E/人口 (円) | | 68.73 418,308 | 71.32 420,619 | 128.39 425,105 | 226.10 427,501 |
| 受益者負担率 (C+D)/A (%) | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | |

※1 職員数・・・(常勤)一般職員, 再任用職員, 任期付職員, 嘱託職員 [非常勤]月額報酬の非常勤職員(一部月額報酬の非常勤職員を含む)

※2 人件費・・・(常勤)任用形態別の平均給与に人工数を乗じ算出 [非常勤]月額報酬(一部月額報酬を含む)の年度合計額

※3 退職金相当額・・・年度内に発生した退職金総額を年度当初一般職員数で除し, 事業に従事する一般職員数を乗じたもの

5. 事務事業を進めていくうえでの課題と課題解決の取組

| | |
|------------------------|--|
| (1) 平成28年度の課題 | 平成27年度に引き続き、引地川河川管理者と詳細設計の中で具体化した構造について河川協議を実施し、河川法に基づく申請を実施する。また、河川改修に先立ち事業用地の取得が必要になることから、用地測量・建物等調査を実施し、地権者との用地交渉に向けた説明を実施する。 |
| (2) (1)解決のための平成29年度の取組 | 詳細設計を発注し、改修に伴う河川構造物を具体化した。 事前河川協議を実施した。 用地測量・建物調査を行いながら、関係地権者から事業の必要性について理解を得た。 |
| (3) 平成29年度の課題 | 河川協議については、引地川護岸への影響が大きく難易度が高いため、時間を要し引き続き協議を継続することとなった。 工事着手に向け他企業支障物件の移設が必要なため、全体的な進捗管理を行う。 事業に必要な用地の交渉を行い、用地取得の協力を得る。 |
| (4) (3)解決のための今後の取組 | 平成30年度に河川協議や他企業等との協議を整え、平成31年度からの工事着手に向けた事業展開を図る。 用地取得を進めるとともに、周辺住民、自治会等への事業説明会を実施する。 |

6. 事務事業の特徴

| | | | |
|-----------|---------------------------|--|---|
| (1) 事業の性質 | ① 法的根拠 | ア=法令等の根拠はないが、市の裁量により実施するもの(イ～オ以外) イ=市の条例等で規定されている事業 ウ=県の条例等で事業の実施について推奨・規定されているもの ○ エ=国の法律で事業の実施について推奨・規定されているもの オ=法律等により、事業の実施が義務付けられているもの(市に裁量の余地がないもの) | |
| | ② 事業実施の位置づけ(市民へのサービス提供状況) | ア=国, 県, 他自治体や民間等も, 市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの イ=国, 県, 他自治体等も, 市内や近隣市町村で市民が利用できる同種のサービスを提供しているもの ウ=国, 県, 他自治体等も同種のサービスを提供しているが, 一部のサービスは本市のみが提供しているもの エ=本市のみがサービスを提供し, よりよい生活環境の実現, 地域の発展, 市民生活の向上を目的とするもの ○ オ=本市のみがサービスを提供し, 生活基盤の維持・確保, 市民の権利維持・安全確保を目的とするもの | |
| | ③ 事業期間 | ア=恒久的に実施するもの イ=年限の定めのないもの ○ ウ=時限的に実施する事業で, 終了まで5年以上あるもの エ=時限的に実施する事業で, 今後2～4年で終了するもの オ=時限的に実施する事業で, 本年度で終了するもの | |
| | (2) 財政的な特徴 | ④ 事業費…平成28年度支出済額 | ア=300,000千円以上 イ=100,000千円以上～300,000千円未満 ○ ウ=30,000千円以上～100,000千円未満 エ=5,000千円以上～30,000千円未満 オ=5,000千円未満 |
| | | ⑤ 一般財源比率…事業費に占める一般財源の割合 | ○ ア=80%以上 イ=50～80%未満 ウ=30～50%未満 エ=10～30%未満 オ=10%未満 |
| | | ⑥ 固定的経費比率…行政費用(フルコスト)に占める固定的な経費の割合 | ○ ア=10%未満 イ=10～30%未満 ウ=30～50%未満 エ=50～80%未満 オ=80%以上 |
| | | (3) 事業の種類 | (4) その他の事業特性 |
| | | 4. 施設等整備 | ・事業計画期間内に一定の区間を手順(調査・測量～用地取得(必要に応じて)～工事設計～工事施工～損失補償等)に応じて進めるインフラ整備事業。 |

7. 事務事業を取り巻く環境の現状と今後の予測

| | | |
|-------|---|--|
| 社会情勢等 | <p>現状：都市化の進展や近年、局地的、突発的に短時間で多量の雨が降る豪雨が頻発・激甚化していることなどから、治水対策の重要性はますます高まっている。そのため、市街化の進展により通常の河川整備による浸水被害の防止が困難である引地川及び同流域は、平成26年2月に特定都市河川浸水被害対策法に基づき、特定都市河川及び特定都市河川流域に指定され、平成26年6月1日から施行された。また、大規模氾濫に対する減災のため、県内1・2級河川の浸水想定区域図が想定最大規模に見直され順次作成される予定である。</p> <p>予測：河川改修事業の進捗により、河川の氾濫等による浸水被害の発生は減少しているが、今後、都市化が一層進展することや地球温暖化の影響等を考えると、洪水等の災害に対する市民からの期待度は高まることが予想される。また、平成27年6月に引地川流域水害対策計画が策定され、現在、同計画に基づく措置等が講じられている。</p> | |
| | <p>他の自治体においても準用河川の改修については、本市と同様な方法で進められている。</p> | |
| 市民ニーズ | 把握方法 | <p>1 浸水被害発生時における状況調査。 2 一色川に設置された水位計により過去の水位データを収集し、河川特性を把握する。 3 河川沿川の住民からの要望。</p> |
| | 把握内容 | <p>1 道路浸水深計・水圧式水位計も設置されており、浸水時間・浸水回数・浸水深を把握している。 2 今後の改修工事に対する意見や要望。</p> |
| | 対応等 | <p>1 ソフト対策として、過去に浸水実績のある3箇所（上・中・下流域）に警報装置を設置し、沿川住民の自助・共助を促している。 2 水位計の設置により、河川の水位情報を把握し、職員の現場配置（交通規制や沿川住民に対する注意喚起等）を効率的に行っている。</p> |

8. 事務事業の評価と今後の方針

| | | |
|-------|--|----------------|
| 評価 | <p>本事業は、「藤沢市市政運営の総合指針2020」に重点事業として位置づけており、「安全・安心」の実現に関わる都市基盤整備事業である。平成29年度は「準用河川一色川整備基本計画」に基づき、引地川合流箇所にある、橋りょうの架替・護岸整備に着手するため、詳細設計委託等を実施し、改修工事に向けた進捗が図られた。また、台風や豪雨等の水害警戒時には、当面の浸水被害対策として設置している水位計・警報装置により、一色川の溢水時にはいち早い交通規制や注意喚起を実施することができた。</p> | |
| | まちづくりテーマ | ① 安全で安心な暮らしを築く |
| 今後の方針 | 事業の方向性 | 現状維持 |
| | <p>本事業は、平成28年7月に準用河川一色川整備基本計画を策定し、平成29年度に橋梁・護岸等詳細設計を実施した。今後は、同計画に基づき下流から河道の段階的整備を進める一方、平成27年6月に策定した引地川流域水害計画に定めた流域対策量を考慮した流域整備を進める。また、河川事業は長期間を要するため、効果発現の早い浸水対策を他事業と連携を図りながら進め、流域としての治水安全度の向上を図る。</p> <p>また、ソフト対策として沿川住民が、河川の状況を直接監視できる河川監視カメラの検討を行い、より一層の自助・共助促す予定である。</p> | |

9. 事務事業の執行にあたって参照する業務記述書

| 業務記述書No. | 具体的業務の名称 | 業務見直しの視点等 | | | |
|----------|-------------------------------|-----------------|------------|--------|--------|
| | | 新たな委託（一部含む）の可能性 | 業務効率改善の可能性 | リスク分類Ⅰ | リスク分類Ⅱ |
| 20 | 準用河川及び水路の整備に伴う調査, 設計, 施工に関する事 | 無 | 無 | 3 | 3 |
| 21 | 河川事業にかかる国及び県の補助金等の事務執行に関する事。 | 無 | 無 | | 3 |

※リスク分類Ⅰ・・・市民等外部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は対象者10%未満, レベル2は10%以上30%未満, レベル3は30%以上。
 ※リスク分類Ⅱ・・・組織内部へ影響を及ぼす度合い。リスクレベル1は課内への影響, レベル2は部内への影響, レベル3は他部又は全庁への影響。

10. 部長確認欄

| | | | | | |
|----|-------|----|-------|-----|-----------|
| 部名 | 道路河川部 | 氏名 | 古澤 吾郎 | 確認日 | 2018/5/31 |
|----|-------|----|-------|-----|-----------|